



町制施行55周年
「更なる進化の1年」

鏡石町長 遠藤 栄作

町民の皆様には、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。昨年発表されました第20回国勢調査の確定値では、本町人口も前回より2.6%の減少となりましたが、本町は15歳未満の割合が県内で一番高く、人口密度も県内1位であるなど、「コンパクトで住みやすく、若い世代の多い町」であることが示されました。

現在、町では第5次総合計画におけるまちの将来像「かわる、かがやく、牧場の朝」のまち「かみいし」の具現化に向け、「やさしさとふれあい」「復興と進化」を基本理念としてまちづくりを進めておりますが、本年度で前期計画が終期を迎えることから、次年度から平成33年度までの後期計画策定を進めてまいります。また、昨年3月には、全国的に課題となっている人口急減・超高齢化社会への対策として、地方創生のための「鏡石町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しておりますので、両計画を相互に連携させながら「通勤に便利で住むにも快適、子育てしやすい環境を備えた定住の町 鏡石」の実現に向け取り組んでまいります。

本年は、町制施行55周年を迎えることから、各種記念事業の展開を予定しております。特に、6月には全国市町村あやめサミットが本町で開催され、あやめを慈しむ全国12市町が本町を訪れますので、あやめ祭りや田んぼアートなどを楽しんでいただき、本町の魅力を存分に伝えたいと考えております。また、昨年「さらさらアート」に挑戦し、本年度6年目を迎える田んぼアート事業では、「銀河鉄道999」などの作画を手掛けた湖川友謙氏に作画の協力をいただき「一寸法師」を描く予定です。なお、湖川さんは3月に放送予定の「まんが日本昔ばなし」でも一寸法師の作画を担当されます。昨年約4万人が来場した町の一大イベントである鏡石「牧場の朝」オランダ・秋祭りも、記念事業として盛大に開催いたします。震災から6年目を迎え、除染事業も3月で完了の見込みとなりました。復興から進化へと軸足を移し、本年は「進化する鏡石」として「更なる進化の1年」とするべく各種施策に取り組んでまいりますので、格別なお力添えをよろしく願っています。

結びに、町民の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。



光り輝くストーリー

鏡石町議会議長 渡辺 定己

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆様にはつつがなく新しい年をお迎えのことと心より、お慶び申し上げます。平素から議会活動には、多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、東日本大震災からすでに6年になりますが、過去5年間はまさに、復旧復興の5年間でありました。昨年からようやく町の予算額も放射能除染対策費を除き、震災前に近づいてきました。本年から町では、第5次総合計画の後期の5年間が始まりますが、震災後の復興に向けた、新たなまちづくりの始まりとも言えるのではないのでしょうか。町議会としても町政の監視機能的役割を果たし、町民の皆様の声をしっかり反映させるため、取り組んで参る所存であります。

震災復興のシンボルの事業として始められた「田んぼアート」については昨年、観覧者数が二万人を超え、町外からも多数の方が町を訪れるようになりましたことは誠に喜ばしい限りであります。童話をモチーフとして毎年絵柄を変え、町のイメージキャラクターである「牧場のあーさー」とコラボレーションさせる一連のストーリーは、リピーターを増やす効果的な手法であり昨年暮れからは、稲刈り後に「イルミネーション『キラキラ』田んぼアート」でさらに幻想的なイメージを創出するなど、光り輝く見事なストーリーで事業を展開し、観る人を魅了しております。ゼロから始まりました事業が関係者の御努力によりまして、より内容が充実し、進化発展しておりますことは、敬服の外はありません。どうかこの事業の「光り輝くストーリー」がますますスケールアップされ、交流人口がさらに拡大されますことを期待いたします。

国際情勢では新米国大統領の就任、韓国大統領の辞任問題など、日々多くの事柄が報じられておりますが、地方議会としても視野を広く持ちながら、足元の行政課題にしっかりと取り組んで参る所存であります。

年頭に当たり、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年もより一層のご支援を、お願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

